



弓削高等学校

<https://ehm-yuge-h.esnet.ed.jp/>


サイクリングガイド実習！



12月11日(金)、サイクリングガイド実習を行いました。商業科目の授業の一環としてゆめしま海道から、大三島にある道の駅多々羅しまなみ公園までをクロスバイクを利用して走ってきました。この日は絶好のサイクリング日和。生徒たちは、長距離を自転車で行くのは初めての経験でした。この日の実習までにプロライダーによるガイド講習や道路交通法を授業で学習しました。今回は、上島町商工観光課の手厚いご支援をいただき、学んだことを実践するよい

機会となりました。生徒たちは、サイクリングの魅力を感じながらもガイドをするという難しさを体験することができました。上島町では2021年度末岩城橋が完成します。これまでのゆめしま海道により一層魅力が加わります。その魅力を弓削高生が伝えることで地域発展に貢献できると考えています。弓削高校の努力目標は「仕事を創りに還りたい人材の育成」です。将来的には、サイクリングガイドで起業できるように支援していきたいと考えています。ぜひ、島民のみなさまのご協力をよろしくお願いいたします。



グループマッチ開催

12月10日(木)にグループマッチが行われ、白熱したキックパースの試合が行われました。初めての種目でしたが、珍プレー、好プレーありで大変盛り上がりしました。



島親募集！

チームで休日に食事等の面倒を見ただけの皆さまを募集します

連絡先 ☎ 77-2021
弓削高校 教頭 渡邊



弓削商船高等専門学校

<https://www.yuge.ac.jp/>


商船祭と球技大会を同時開催

12月19日(土)、延期になっていた商船祭と球技大会を同時開催し、サッカー、バスケットボール、バレーボール、ソフトボール、リレーとeスポーツが実施され白熱した戦いが行われました。



柔道場にて軽音ライブステージや化学実験室前にて書道部の作品の展示もありました。学内でのみの開催でしたが大変盛り上がる1日となりました。

公開講座「バスケットボール教室」開催

12月13日(日)、コロナ禍でもバスで元気になるため「楽しむ・つながり・チャレンジ」をテーマに「バスケットボール教室」を開催し、近隣の小学1年生から中学2年生までの22名が参加しました。

当日は講師から、「シュート・ドリブル・パス」が上手くなるにはボールコントロールが重要という説明がありました。

その後ドリブルやシュート練習、最後に練習試合を行い、本

校のバスケット部員22名からコッスを教わりながら、賑やかな教室となりました。



産学連携フォーラム2020・専攻科特別研究中間発表会を開催

12月19日(土)、本校アセンブリホールにて上島町島おこし協力隊、株式会社東洋高圧による一般講演のほか本校教員・専攻科生による研究発表を行いました。この会を通して地域企業の皆さまとの相互交流による新たな活動の端緒を探っていくことができたと考えております。

かみじま郷土話 5

弓削島の久司浦地区には田林(たなばし)という小字があります。久司浦地区の海岸沿いに鎮座する大森神社から北方向に進んでいくとどき着くことができます。田林の海岸からは、因島村上水軍が築いた美崎城跡(因島)や、向島などを身近に見ることができるほか、田林からさらに東へ進んでいくと弓削島北端の岬である馬立ノ鼻があります。



曾根 大地
教育課

おたなばし

大田林の塩浜

応長元年(1311)の「伊予国弓削島庄田島山林塩浜以下相分帳」(東寺百合文書WEBヨ函74)の記録には「タナハシ」という名で登場し、塩穴が存在したことを読み取ることができます。田林は、集落がある西側の平地を小田林(こたなばし)、畑や山林が広がる東側を大田林(おおたなばし)と呼び分けられており、令和元年度に行った塩田の調査では、集落がない大田林で発掘調査を行いました。調査では、硬く叩き締められた土の層である浜床(はまとこ)を見つけることができ、出土遺物や炭化物の自然科学分析の結果から、庄園時代においてこの地で塩づくりが行われていたことの裏付けをとることができました。

別の地区では、民家の床下を調査させて頂いた時、貯蔵穴の壁面に浜床が見えていました。島の住民の方によると、畑を耕していた時に浜床と思われる硬い土の層が現れたといった話を聞くこともできました。大田林のような昔の人々による塩づくりの活動の痕跡が、今も島のあちこちに残されていると思われます。



大田林の発掘調査

島おこし協力隊活動報告

生名、佐島、魚島で空き家調査を行いました

上島町において移住・定住促進の取り組みを担当するにあたって協力隊初年度の活動を、町内に存在している空き家の実態調査から始めています。自治会や、すでに空き家の問題に地域で取り組んでおられる方々と協働していくためにも、調査を自治会の地区組織に分けて順次実施しています。8月から9月にかけて生名地区、10月から11月にかけて弓削地区の佐島区において調査を実施し、報告書をまとめました。12月下旬の現時点では、魚島地区での調査を進めており、年明けの2月からは、弓削地区の下弓削区で調査を行う計画です。また、同期の協力隊田邊さんが、岩城地区において調査を実施しています。

移住相談の窓口業務を通じて、上島町への移住を希望する方は全国にたくさんいらっしゃると思っています。また町内

でも、転居先として、あるいは結婚など新生活を始めるのを機に、空き家を探す方は多くいらっしゃいます。ですが、すぐに入居できる空き家は、町内の方でも簡単には見つからないようです。またこれまで、町の空き家バンクに状態の良い空き物件が掲載すれば、たいいていすぐに、買い手/借り手が決まってきました。

空き家調査では、主に建て替えなどすることなく「利活用可能な空き家」に関するデータベースを作成することを目指しています。そのうえで、それらをどのように実際の利活用につなげていくことができるのか、そのためにはどのようなプロセスが必要になるのかについて、所有者の方々、自治会をはじめとする地域組織、そして行政と議論を深めていく機会をつくっていくことができれば、と考えています。



魚島での空き家調査の様子



島おこし協力隊
平田 浩司